

平成26年9月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月7日
上場取引所 東 福

上場会社名 コーアツ工業株式会社
 コード番号 1743 URL <http://www.koatsuind.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 定時株主総会開催予定日 平成26年12月19日
 有価証券報告書提出予定日 平成26年12月24日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 白石 純孝
 (氏名) 西 成人
 TEL 099-229-8181
 配当支払開始予定日 平成26年12月22日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期の連結業績(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期	7,472	10.6	103	692.3	104	662.2	65	26.6
25年9月期	6,753	△2.2	13	△63.0	13	△66.9	52	9.9

(注) 包括利益 26年9月期 87百万円 (△26.7%) 25年9月期 119百万円 (196.8%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年9月期	8.68	—	1.1	1.0	1.4
25年9月期	6.86	—	0.9	0.1	0.2

(参考) 持分法投資損益 26年9月期 ー百万円 25年9月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年9月期	10,220	6,009	58.8	792.01
25年9月期	9,764	6,001	61.5	790.77

(参考) 自己資本 26年9月期 6,009百万円 25年9月期 6,001百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年9月期	877	△430	△68	676
25年9月期	△370	△136	189	298

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
25年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00	37	72.8	0.6
26年9月期	—	0.00	—	5.00	5.00	37	57.5	0.6
27年9月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00		44.6	

3. 平成27年9月期の連結業績予想(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,488	0.2	126	22.6	124	19.1	84	28.9	11.20

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年9月期	7,600,000 株	25年9月期	7,600,000 株
② 期末自己株式数	26年9月期	11,758 株	25年9月期	10,499 株
③ 期中平均株式数	26年9月期	7,589,013 株	25年9月期	7,589,669 株

(参考)個別業績の概要

平成26年9月期の個別業績(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期	6,910	11.5	141	—	142	—	104	103.8
25年9月期	6,199	△3.6	11	△74.9	12	△76.8	51	△12.9

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期	13.77	—
25年9月期	6.75	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
26年9月期	10,222	6,129	6,129	60.0	807.71			
25年9月期	9,628	6,041	62.7	795.98				

(参考) 自己資本 26年9月期 6,129百万円 25年9月期 6,041百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、連結財務諸表に対する監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1)経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	4
2. 企業集団の状況	5
3. 経営方針	6
(1) 会社の経営の基本方針	6
(2) 目標とする経営指標	6
(3) 中長期的な会社の経営戦略	6
(4) 会社の対処すべき課題	6
(5) その他、会社の経営上重要な事項	6
4. 連結財務諸表	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	12
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	14
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	15
(会計方針の変更)	16
(セグメント情報等)	17
(1株当たり情報)	19
(重要な後発事象)	19

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

(当期の経営成績)

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府による経済政策や日本銀行による経済・金融政策を背景に、円安や株式市場の回復などにより、大企業を中心に企業収益の改善や個人消費の持ち直しが見られるなど緩やかな景気回復基調で推移しました。

建設業界におきましては、震災復興関連事業や耐震補強事業等の関連工事により、公共投資は増加しておりますが、受注物件の獲得競争や労務費・材料費の高騰等が影響しており厳しい受注環境が続いております。

このような中、当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ。)は当期経営基本方針として「発注量の多い地域への重点的な営業活動と技術提案力・企業評点向上による受注獲得と、原価低減による収益力アップを図る。」を掲げ、鋭意努力してまいりました。その結果、売上高におきましては74億72百万円と前連結会計年度に比し7億19百万円(10.6%増)の増収になりました。また、完成工事高の増加、工事原価の圧縮等により、経常利益は1億4百万円と前連結会計年度に比し90百万円(662.2%増)の増益となりました。

当期純利益につきましては65百万円と前連結会計年度に比し13百万円(26.6%増)増益となりました。

当連結会計年度の受注高、売上高及び繰越高は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

事業の種類別	前期繰越高	当期受注高	当期売上高	次期繰越高
建設事業	3,298	5,819	6,085	3,032
コンクリート製品事業	198	1,183	1,212	169
不動産事業	—	—	106	—
その他	—	—	68	—
合計	3,497	7,002	7,472	3,202

a. 建設事業

当連結会計年度における建設事業の完成工事高は60億85百万円と前連結会計年度に比し7億6百万円(13.1%増)の増収となりました。主な完成工事は、鹿児島県 道路整備(交付金)工事(小谷拡幅24-3工区)7億59百万円(うち当期完成工事高4億79百万円)、鹿児島県 道路整備(交付金)工事(蘭牟田瀬戸架橋第1橋)6億41百万円(うち当期完成工事高2億50百万円)等であります。完成工事高の増加、工事利益率の改善により営業利益は4億6百万円となり、前連結会計年度に比し1億40百万円(52.8%増)の増益となりました。

b. コンクリート製品事業

当連結会計年度におけるコンクリート製品事業の売上高は12億12百万円と前連結会計年度に比し12百万円(1.1%減)の減収となりました。売上高の減少、材料高騰による売上原価率の悪化により営業利益は25百万円と前連結会計年度に比し23百万円(47.1%減)の減益となりました。

c. 不動産事業

当連結会計年度における不動産事業の売上高は1億6百万円と前連結会計年度に比し19百万円(22.1%増)の増収となりました。所有する賃貸不動産の修繕費の発生により営業利益は9百万円となり、前連結会計年度に比し13百万円(59.4%減)の減益となりました。

(次期の見通し)

今後の見通しにつきましては、当社及び当社グループの主たる建設事業においては東日本大震災の復興関連事業や耐震補強事業で回復が見込まれますが、受注物件の獲得競争や労務費・材料費の高騰等で厳しい受注環境が続いております。

このような経営環境の中、当社及び当社グループは「挙社一致、総力を結集して、企業評点向上や若手技術者の育成等に努め、受注獲得に傾注する。」を次期経営基本方針とし、これに係る諸施策を遂行し利益の確保に努めてまいります。

なお、次連結会計年度の通期業績予想は、売上高74億88百万円、営業利益1億26百万円、経常利益1億24百万円、当期純利益84百万円を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、短期借入金及び長期借入金の返済による支出があったものの、売上債権の減少及び長期借入金による収入があったことから前連結会計年度に比し3億78百万円の増加となり、当連結会計年度末は6億76百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金収支は、8億77百万円と前連結会計年度に比し12億48百万円の増加となりました。これは売上債権の増減が5億65百万円減少したことに加え、未成工事受入金の増減が1億96百万円増加したことが主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金収支は、マイナス4億30百万円と前連結会計年度に比し2億93百万円の減少となりました。これは投資有価証券の取得による支出が99百万円、固定資産の取得による支出が1億27百万円増加したことが主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金収支は、マイナス68百万円と前連結会計年度に比し2億58百万円の減少となりました。これは長期借入による収入が4億50百万円増加したものの、短期借入金の返済による支出が7億70百万円増加したことが主な要因であります。

なお、当社グループのキャッシュ・フロー指標群のトレンドは以下のとおりであります。

	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
自己資本比率 (%)	52.3	58.6	60.5	61.5	58.8
時価ベースの自己資本 (%)	10.1	11.8	11.1	16.2	17.7
債務償還年数 (年)	—	3.6	6.1	—	1.8
インタレスト・カバレッジ・レシオ	—	12.7	7.7	—	42.5

※自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

1. 各指標はいずれも連結ベースの財務数値により計算しております。
2. 株式時価総額は期末時価終値×期末発行済株式総数により算出しております。
3. 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては連結損益計算書の支払利息額を使用しております。
4. 第52期、第55期の債務償還年数及びインタレスト・カバレッジ・レシオについては営業キャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは、従来から官公需を主体とする工事請負施工部門の比重が大きく、公共性の高い事業内容となっており、より安定した経営成績の確保及び経営基盤の維持増強に努めております。

したがって、利益配分についても、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

以上のことより当期末及び来期末も1株当たり5円の配当を予定しております。

(4) 事業等のリスク

当社グループの事業発展その他に関するリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項には以下のようなものがあります。なお、将来に関する事項が含まれておりますが、当連結会計年度末現在において判断したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

① 公共事業への依存について

当社グループの事業内容は主に建設事業であり、売上高の概ね8割～9割を公共工事で占めております。官公庁工事が多いことで資金の未回収リスクは低いものの、近年の公共工事縮減政策により、受注高ひいては完成工事高の低下をもたらす虞れがあります。

② 取引先の信用リスクが増加する可能性について

建設業において民間工事については、多くの場合、工事目的物の引渡し時に多額の工事代金が支払われる条件で契約が締結されており、工事代金を受領する前に取引先が信用不安に陥った場合には、業績に及ぼす可能性があります。

③ 資材価格や外注労務単価の変動について

様々な要因で資材の購入価格や外注労務単価が高騰した際、請負金額に反映することが困難な場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

④ かし担保責任及び製造物責任について

品質管理には万全を期しておりますが、かし担保責任及び製造物責任による損害賠償が発生した場合には、業績に影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 現場での労災事故について

建設事業は高所作業などの危険作業が多く、産業界でも事故発生率は最も高い産業であり、当然のことではあります。全社を挙げてゼロ災害に取り組んでおります。しかしながら、万一重大事故が発生した場合には、社会的影響は大きく、発注機関から指名停止を受けるなど、業績に影響を及ぼす可能性があります。

2. 企業集団の状況

当社グループは、当社、子会社2社で構成され、プレストレストコンクリート（以下「PC」という。）及び一般コンクリートを用いる土木・建築工事の請負、設計、施工、監理を中心に、PC製品及び一般コンクリート製品の製造及び販売、型枠の賃貸、不動産の販売・賃貸、太陽発電による売電及び健康食品等の販売の事業を行っております。

各事業における当社グループ各社の位置付け等は次のとおりであります。

(建設事業)

当事業は、一般土木の施工と違い、当社を中心とした橋梁工事部門と基礎工事部門及び連結子会社(株)ケイテックを中心とした橋梁・各種構造物の補修工事部門にて事業活動を行っております。

(コンクリート製品事業)

当事業は、当社にて製造したPC関連を中心としたコンクリート製品及び一般土木用コンクリート製品の販売、同製品の連結子会社(株)ケイテックにおける販売、当社における消波・根固用として使用される土木用ブロックの鋼製型枠の賃貸の各事業を行っております。

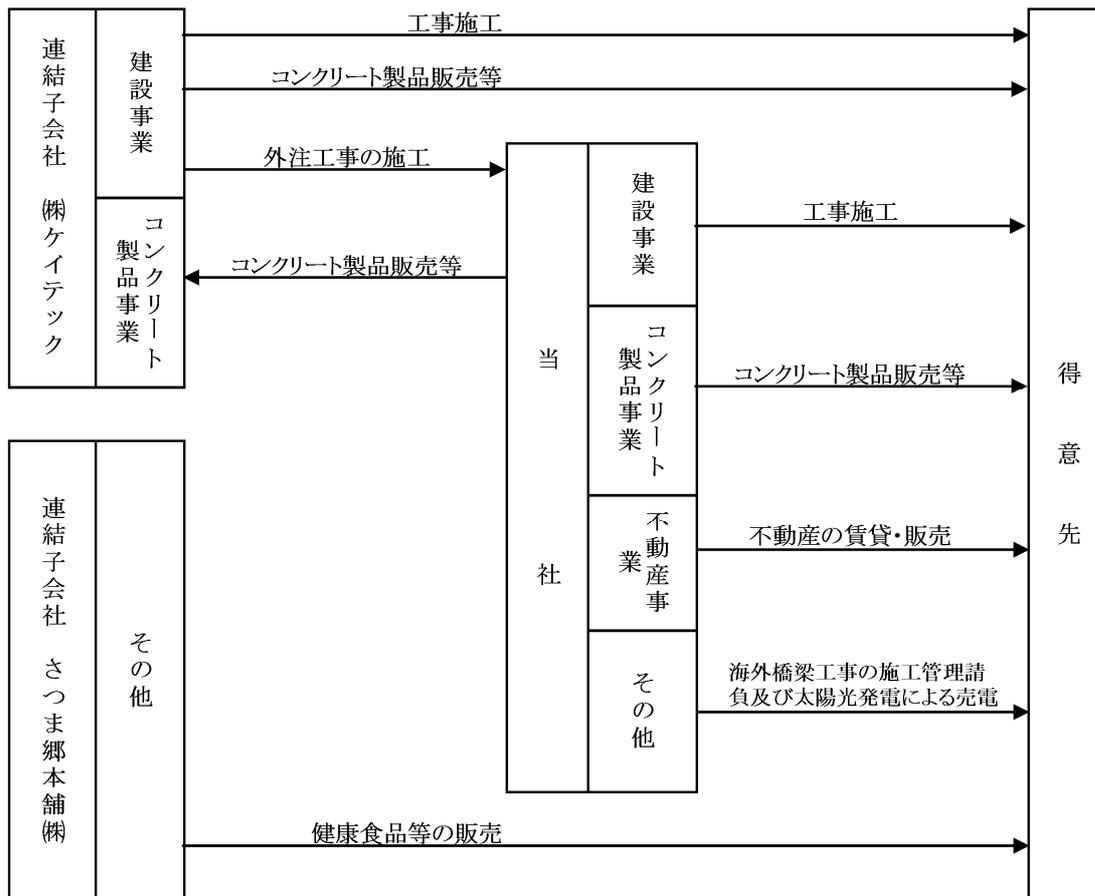
(不動産事業)

当事業は、当社にてホテル施設を主体とした不動産の賃貸、並びに販売事業を行っております。

(その他)

海外での橋梁工事の施工管理請負事業及び太陽光発電による売電事業と、連結子会社「さつま郷本舗(株)」における食品事業を行っております。

事業系統図を示すと、次のとおりであります。



3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループ（当社及び連結子会社）は、

1. 当社は人と自然の調和を図り、うるおいのある環境づくりで社会に貢献する。

2. 当社の社員は誠実をモットーに、社会に役立つ積極的な行動を行う。

という企業理念のもと、地域社会住民との協調をめざし事業活動を展開しております。

経営の基本方針につきましては、以下の個別方針に基づき、当社グループの株主、取引先、従業員に対して誠実な企業であるとともに、競争にうち勝てる企業であり続けなければならないと考えております。

①お客様に満足を与え、感謝される仕事を通じ、当社及び当社グループの繁栄を目指す。

②工事施工、製造の技術と能力の向上を追求し、取引先の信頼に応える。

③収益性の向上と健全な財務体質を目指し、株主の委託に答える。

④社員には働き甲斐と公正な機会を与え、正当な評価でインセンティブを高める。

(2) 目標とする経営指標

当社グループの収益の柱である建設事業及びコンクリート製品事業は、近年公共工事の縮減の状況で収益の確保が困難な環境ではありますが、総資産利益率（ROA）の向上を経営の目標としてまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、建設事業分野の橋梁施工事業を収益の柱として企業活動を行っており、基本的にはこの事業をいかに継続発展させていくかが中長期的な経営戦略の要であります。昨今の建設業界におきましては、政府の経済政策により公共事業費の増加が見られ、橋梁施工事業の総発注量及び九州地区の発注量においても増加の見込であります。

このような状況のなか、公共工事におきましては発注量の多い地域での売上高の確保を基本とした営業戦略を行います。具体的施策として情報収集・積算精度の向上を図るとともに、配置技術者の捻出及び若手技術者の育成と安全施工を優先しつつ、企業評点向上を図り、良い条件で応札できる営業戦術による工事の受注活動を行います。補修工事については構造物長寿命化事業への取組みととらえ技術職員増員や低い利益率問題をクリアする体制構築、海外事業については継続した業務受託と建設工事共同企業体による工事受注・工事下請負及び業務受託工事を通じて技術者の海外での研鑽による次段階の受注獲得を目指します。復興事業については受注体制の整備と全社連携により共同企業体による大型工事物件の獲得を目指します。又、民需中心の基礎工事においては受注体制の拡充を図り、受注の拡大に努めていき公共工事に依存しない受注体制を確立していきます。

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループの位置する建設業界におきましては、東日本大震災の復興関連事業や耐震補強事業で回復が見込まれますが、受注物件の獲得競争や労務費・材料費の高騰等が影響しており厳しい受注環境が続いております。当社グループにおきましても受注高の減少に加えまして工事の収益性の低下といった問題に直面しております。

今後の展開につきましては、発注量の多い地域での売上高の確保を営業戦略として、情報収集・積算精度の向上を図り、地域特性や発注者に応じた戦略を立て、良い条件で応札できる営業戦術の実行と配置技術者の捻出及び若手技術者を育成しつつ、安全施工・最短工期と高精度の施工による工事評点の向上を図ってまいります。食品事業につきましては、民間需要に対応すべく売上高の増加につながる営業体制を構築していきます。不動産事業につきましても、遊休地を含む資産の洗い出しを行い資産の有効活用を図ってまいります。

(5) その他、会社の経営上重要な事項

該当事項はありません。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	418,228	796,626
受取手形・完成工事未収入金等	1,621,974	1,468,527
有価証券	—	99,586
販売用不動産	119,225	92,891
未成工事支出金	162,874	119,704
商品及び製品	168,183	155,590
仕掛品	4,666	3,474
材料貯蔵品	36,438	32,504
その他	165,588	62,190
貸倒引当金	△6,808	△6,437
流動資産合計	2,690,370	2,824,657
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	3,601,018	3,575,116
減価償却累計額	△2,396,609	△2,409,666
建物・構築物(純額)	1,204,408	1,165,450
機械、運搬具及び工具器具備品	3,925,069	3,478,086
減価償却累計額	△3,691,803	△3,301,876
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	233,265	176,210
土地	4,261,315	4,251,737
リース資産	—	159,300
減価償却累計額	—	△7,080
リース資産(純額)	—	152,220
建設仮勘定	22,924	313,407
有形固定資産合計	5,721,914	6,059,026
無形固定資産		
投資その他の資産	35,212	31,934
投資有価証券	1,045,633	1,079,166
前払年金費用	45,899	—
その他	522,731	522,557
貸倒引当金	△296,851	△296,817
投資その他の資産合計	1,317,411	1,304,906
固定資産合計	7,074,538	7,395,866
資産合計	9,764,909	10,220,524

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当連結会計年度 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	1,440,915	1,425,230
短期借入金	390,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	332,384	295,974
リース債務	—	10,620
未払法人税等	22,021	43,260
未成工事受入金	358,248	485,360
完成工事補償引当金	5,000	3,600
工事損失引当金	27,568	20,657
賞与引当金	9,790	73,627
その他	205,741	317,322
流動負債合計	2,791,670	2,685,653
固定負債		
長期借入金	885,517	1,275,143
リース債務	—	141,600
繰延税金負債	61,950	45,110
退職給付に係る負債	—	34,569
その他	24,198	28,462
固定負債合計	971,665	1,524,884
負債合計	3,763,336	4,210,538
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,319,000	1,319,000
資本剰余金	1,278,500	1,278,500
利益剰余金	3,329,975	3,357,967
自己株式	△3,320	△3,589
株主資本合計	5,924,154	5,951,878
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	77,418	99,080
退職給付に係る調整累計額	—	△40,972
その他の包括利益累計額合計	77,418	58,108
純資産合計	6,001,573	6,009,986
負債純資産合計	9,764,909	10,220,524

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
売上高		
完成工事高	5,378,916	6,085,638
製品売上高	1,287,306	1,280,391
不動産売上高	87,113	106,374
売上高合計	6,753,337	7,472,404
売上原価		
完成工事原価	4,832,066	5,372,183
製品売上原価	1,146,764	1,156,123
不動産売上原価	64,697	97,423
売上原価合計	6,043,528	6,625,730
売上総利益		
完成工事総利益	546,850	713,455
製品売上総利益	140,542	124,267
不動産売上総利益	22,416	8,950
売上総利益合計	709,808	846,674
販売費及び一般管理費	696,785	743,487
営業利益	13,023	103,186
営業外収益		
受取利息	274	614
受取配当金	8,201	8,200
受取賃貸料	9,191	8,212
作業くず売却益	2,780	3,639
その他	11,650	7,110
営業外収益合計	32,099	27,777
営業外費用		
支払利息	25,139	20,637
支払保証料	4,548	5,578
その他	1,722	231
営業外費用合計	31,409	26,447
経常利益	13,713	104,516
特別利益		
固定資産売却益	21,959	4,980
課徴金納付見込額戻入益	81,066	—
特別利益合計	103,025	4,980
特別損失		
固定資産除却損	8,914	6,476
固定資産売却損	—	1,090
減損損失	3,092	3,836
貸倒引当金繰入額	40,000	—
特別損失合計	52,007	11,402
税金等調整前当期純利益	64,731	98,093

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
法人税、住民税及び事業税	19,920	38,412
法人税等調整額	△7,289	△6,258
法人税等合計	12,631	32,153
少数株主損益調整前当期純利益	52,100	65,939
当期純利益	52,100	65,939

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	52,100	65,939
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	67,447	21,662
その他の包括利益合計	67,447	21,662
包括利益	119,547	87,602
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	119,547	87,602

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

(単位: 千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,319,000	1,278,500	3,315,824	△3,243	5,910,081
当期変動額					
剰余金の配当			△37,949		△37,949
当期純利益			52,100		52,100
自己株式の取得				△76	△76
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			14,150	△76	14,073
当期末残高	1,319,000	1,278,500	3,329,975	△3,320	5,924,154

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	9,971	—	9,971	5,920,052
当期変動額				
剰余金の配当				△37,949
当期純利益				52,100
自己株式の取得				△76
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	67,447	—	67,447	67,447
当期変動額合計	67,447	—	67,447	81,521
当期末残高	77,418	—	77,418	6,001,573

当連結会計年度(自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,319,000	1,278,500	3,329,975	△3,320	5,924,154
当期変動額					
剰余金の配当			△37,947		△37,947
当期純利益			65,939		65,939
自己株式の取得				△268	△268
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	27,992	△268	27,723
当期末残高	1,319,000	1,278,500	3,357,967	△3,589	5,951,878

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	77,418	—	77,418	6,001,573
当期変動額				
剰余金の配当				△37,947
当期純利益				65,939
自己株式の取得				△268
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	21,662	△40,972	△19,310	△19,310
当期変動額合計	21,662	△40,972	△19,310	8,413
当期末残高	99,080	△40,972	58,108	6,009,986

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	64,731	98,093
減価償却費	197,063	180,896
減損損失	3,092	3,836
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	34,455	△405
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	2,000	△1,400
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	6,607	△6,910
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△13,340	63,837
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	17,043
受取利息及び受取配当金	△8,476	△8,814
支払利息	25,139	20,637
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△13,044	186
課徴金納付見込額戻入益	△81,066	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△400,177	165,448
未成工事支出金の増減額 (△は増加)	99,550	43,170
その他のたな卸資産の増減額 (△は増加)	△46,028	49,523
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△7,592	91,071
仕入債務の増減額 (△は減少)	91,891	△15,684
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	△69,589	127,111
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△113,648	81,817
その他	9,206	3,430
小計	△219,225	912,888
利息及び配当金の受取額	8,480	8,422
利息の支払額	△26,021	△19,834
課徴金等の支払額	△115,984	-
法人税等の支払額	△18,063	△24,109
営業活動によるキャッシュ・フロー	△370,813	877,367
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△210,905	△338,566
有形固定資産の売却による収入	60,300	10,093
有価証券の取得による支出	-	△98,775
投資有価証券の売却による収入	11,820	-
貸付金の回収による収入	399	418
その他	2,031	△3,303
投資活動によるキャッシュ・フロー	△136,354	△430,134
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	390,000	△380,000
長期借入れによる収入	350,000	800,000
長期借入金の返済による支出	△513,584	△446,784
リース債務の返済による支出	-	△7,080
自己株式の取得による支出	△76	△268
配当金の支払額	△37,020	△34,702
財務活動によるキャッシュ・フロー	189,318	△68,835
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△317,849	378,397
現金及び現金同等物の期首残高	616,078	298,228
現金及び現金同等物の期末残高	298,228	676,626

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社 (2社 (株)ケイテック、さつま郷本舗株) を連結しております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

売買目的有価証券

時価法 (売却原価は移動平均法により算定)

その他有価証券

時価のあるもの

……………決算期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております)

時価のないもの

……………移動平均法による原価法

② たな卸資産

販売用不動産

……………個別法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

未成工事支出金

……………個別法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

製品、仕掛品及び材料

……………総平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品

……………最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

定率法 (但し、平成10年4月1日以降に取得した建物 (附属設備を除く) については定額法) を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物・構築物 8年～50年

機械・運搬具及び工具器具備品 3年～10年

② 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間 (5年) に基づいております。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 完成工事補償引当金

完成工事のかし担保の費用に備えるため、過去2年以内における完成工事高に対する補修費の割合を基礎に将来の補修費の見込額を加味して計上しております。

- ③ 工事損失引当金
受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末手持工事のうち損失が見込まれ、かつ、損失額を合理的に見積ることができる工事について、当該損失見積額を計上しております。
- ④ 賞与引当金
従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
- ② 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
完成工事高及び完成工事原価の計上基準
当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。
なお、当連結会計年度の工事進行基準によった完成工事高は、4,610,605千円であります。
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が34,569千円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が40,972千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、建設事業及び建設関連事業を中心とした事業を展開しており本社に建設事業、コンクリート製品事業、不動産事業を管理する部署を置き、連結子会社においては食品事業を管理する部署を置き、包括的な戦略を立案し、事業活動を行っております。

したがって、当社は事業部門及び子会社を基礎とした製品サービス別のセグメントから構成されており、「建設事業」「コンクリート製品事業」及び「不動産事業」の3つを報告セグメントとしております。なお、当連結会計年度から「売電事業」を行っておりますが重要性がないため「その他」に含めております。

「建設事業」は、橋梁工事、基礎工事、橋梁補修工事の施工請負等、「コンクリート製品事業」は、コンクリート二次製品の製造販売、型枠賃貸等、「不動産事業」は不動産の販売及び賃貸に関する事業を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業損益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいています。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計
	建設事業	コンクリート製品事業	不動産事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	5,378,916	1,225,210	87,113	6,691,241	62,096	—	6,753,337
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	132,313	1,051	133,365	2,858	△136,223	—
計	5,378,916	1,357,524	88,165	6,824,606	64,954	△136,223	6,753,337
セグメント利益	266,300	49,065	23,044	338,410	9,824	△335,211	13,023
セグメント資産	3,514,674	1,241,508	1,511,376	6,267,559	13,004	3,484,345	9,764,909
その他の項目							
減価償却費	114,260	23,474	34,935	172,670	—	24,392	197,063
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	123,330	12,425	9,200	144,955	—	4,350	149,306

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品事業等を含んでおります。

2. セグメント利益調整額△335,211千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整しております。

4. セグメント資産調整額3,484,345千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。

5. 減価償却費の調整額24,392千円の内容は、本社管理施設等に係る減価償却費であります。

6. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額4,350千円は、本社管理施設等に係る設備投資額であります。

当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	合計
	建設事業	コンクリート製品事業	不動産事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	6,085,638	1,212,239	106,374	7,404,252	68,152	-	7,472,404
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	196,465	831	197,297	2,851	△200,148	-
計	6,085,638	1,408,704	107,206	7,601,549	71,003	△200,148	7,472,404
セグメント利益	406,837	25,941	9,357	442,136	12,250	△351,200	103,186
セグメント資産	3,020,128	1,247,169	1,382,701	5,649,999	673,565	3,896,958	10,220,524
その他の項目							
減価償却費	97,987	19,888	31,975	149,851	8,041	23,003	180,896
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	49,596	7,748	1,300	58,644	464,798	17,009	540,451

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品事業等を含んでおります。

2. セグメント利益調整額△351,200千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整しております。

4. セグメント資産調整額3,896,958千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産が含まれております。

5. 減価償却費の調整額23,003千円の内容は、本社管理施設等に係る減価償却費であります。

6. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額17,009千円は、本社管理施設等に係る設備投資額であります。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)		当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)	
1株当たり純資産額	790円77銭	1株当たり純資産額	792円01銭
1株当たり当期純利益	6円86銭	1株当たり当期純利益	8円68銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成25年10月1日 至 平成26年9月30日)
当期純利益 (千円)	52,100	65,939
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	52,100	65,939
普通株式の期中平均株式数 (千株)	7,589	7,589

(重要な後発事象)

該当事項はありません。